

KYOTO SANGYO UNIVERSITY
京都産業大学



経済学部 経済学科

5.17.Thu. at Kyoto
15:00~16:30
大坂 仁 教授



途上国の経済発展の諸問題について

講義の流れ
教科書・レジュメに基づき開発経済学の基本的な知識や理論について学んでいく。
貧困問題や所得不平等、人口問題などニュースでも頻繁に取り上げられる途上国の諸問題について専門的に学べ、学術的に知識が深まる。

どうやって経済発展していくのか？
基本的な仕組みを知る

300人以上入る大教室の席が、開始前にどんどんと埋まっていく。「開発経済学A」を担当する大坂先生は、今年4月京都産業大学に着任したばかり。今年初開講となる講義だけに、学生たちの期待は極めて高い。「はじめます」という第一声に続いて配られたの



は3枚のプリント。毎回配られるプリントには、その日に説明される項目が簡条書きで示され、関連する図表が並んでいる。大坂先生いわく「プリントにはあまり細かい説明は書かないようにしているんです。話したことを書き取ってもらいたいので」とのこと。しかし、細かく書かれていないといいつつも、A3サイズのプリントには要点項目がびっしり。1時間30分の講義時間ですべてを消化するにはかなりの集中力と予習、復習が必要になってくる。さらに、翌々週には中間試験が控えているという。否応なしに学生たちの顔つきも真剣になっていく。

世界の人口増加は
すべしに止まらなう!?

今日のテーマは「人口問題」について。まずは現状の把握のため「現在の世界人口は70億人。国連の推計では2050年までに91億人以上になると予想されています」と数字が説明され、開発経済学的視点から急激な人口増加が人々の生活水準にどのような影響を及ぼすか幾つかの問題が示された。

途上国の所得水準の動向、雇用の機会、貧困の状況、食料問題や環境問題等々、まさに現在の途上国が直面している問題へと視点が広がっていく。

さらに人口の趨勢を知るために、「世界の人口構成」として「人口増加の慣性」

近代化が生む少産少死
急速な経済発展による人口転換

講義はいよいよこの日の主要トピックである「人口転換」へ。人口転換とは、社会の近代化に伴って、それ以前とは人口の増え方が変化すること。

①多産多死から②多産少死③少産少死へと変化する3段階にわけられる。

ここで例示されたのが、18世紀から西欧で起こった産業革命前後の人口転換。ここではその背景と出生率、死亡率を読み解き、途上国における人口転換との比較が行われた。

「西欧と途上国の人口転換のグラフで、気をつけてほしいのは縦軸と横軸。途上国の方が元々出生率が高い点と、第2段階(多産少死)に要した年数が途上国の方が短い点です」と先生。さらに途上国は、急速な経済発展を遂げた東アジア諸国と、経済発展が停滞しているサハラ砂漠以南



VOICES 学生の声
of University Students



吉田 里穂さん(左)
経済学部 経済学科3年
今年から開講された授業ですが、国際政策に興味があり面白い話が聞けそうと思いい履修しました。毎回興味深い内容をレジュメに沿って詳しく説明をしてもらえ、とても分かりやすい授業です。疑問に思った点を質問に行っても丁寧に答えくださり、きちんと理解できるようにバックアップしてもらえます。

東野 美香さん(右)
経済学部 経済学科3年
配布プリントに沿って分かりやすく説明してもらえ、質問も受け付けてくださるので、意欲的に勉強に取り組むことができました。いままでの授業で経済発展や経済成長の流れがよく理解できました。大坂先生の講義は国連におられた経験や実体験なども織り交ぜて説明してくださるところが魅力です。

京都産業大学

資料の請求およびお問い合わせ先
URL <http://www.kyoto-su.ac.jp/>
TEL:075-705-1437
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 京都産業大学 入学センター

- 経済学部
- 経営学部
- 法学部
- 外国語学部
- 文化学部
- 理学部
- コンピュータ理工学部
- 総合生命科学部

【大学について】

本学のキャンパスは、京都の中でもひとときわ風光明媚な洛北・上賀茂にあります。その自然環境に恵まれた広大なキャンパスに文系・理系8学部および大学院など、大学のすべての機能を集約した一拠点総合大学。学部の枠を超えた柔軟で学際性豊かなカリキュラムを編成しており、時代のニーズにあった特色ある教育を展開しています。

【オープンキャンパス情報】

8月4日(土)、5日(日)、18日(土)
9月17日(月・祝)

※詳細は、大学ホームページをご覧ください。



おおさか ひとし
大坂 仁先生
上智大学外国語学部卒業、国際連合職員(アジア太平洋経済社会委員会、UN-ESCAP)、九州大学大学院経済学研究院准教授、同教授を経て、2012年より現職。専門は開発経済学、国際経済学。著書に「東アジアの発展経済、生産性の計量分析」(多賀出版)など。